

有機リン系農薬に慢性毒性の懸念



The Knights

農薬などに使われる有機リン化合物の慢性毒性を懸念する声が出てきています。人体への悪影響が明確になったわけではありませんが、散布された農薬を吸い込んで神経や精神に異常をきたしたとする例が報告されています。日用品のプラスチックの一部にも有機リンが含まれており、影響がある可能性があります。専門家は規制を強めるよう求めており、農薬空中散布の自粛を求める自治体も現れました。

群馬県では有機リン系農薬の空中散布地域に住む未成年が相次いで不登校、うつ、引きこもりになりました。同時に有機リン慢性中毒に見られる瞳孔機能の異常が見られた為、有機リン中毒の治療を施した結果、うつなどが治ったそうです。神経や精神症状は原因を突き止めるのが難しい為、有機リンの慢性毒性についてはこれまでよくわかっていませんでしたが、近年になって診断技術の向上等により慢性毒性の可能性が明らかになりつつあります。

政府も危険性を認め、参院予算委員会で今年3月18日、加藤修一参院議員が有機リン中毒について質問したところ、厚生労働省の中島正治健康局長は「有機リンは急性中毒の他情動や精神活動など高度な脳機能に慢性的な障害を引き起こす恐れがある」と答え、慢性中毒の存在を認めました。

同省は今年5月29日から農薬の新しい規制(ポジティブリスト制度)を導入し、農産物について、これまで残留農薬基準値が設定されていなかった農薬も一律に濃度0.01ppm以下とする規制をかけました。これは様々な農薬を対象としたものですが、有機リン系農薬も含まれます。

これらの背景から、群馬県は全国に先駆けてラジコンヘリコプターを使った有機リン系農薬の空中散布の自粛を求める事を決めました。

当社では今年5月29日より施行されましたポジティブリスト制度に対応する食品中残留農薬分析を受け付けております。残留農薬分析に関しましてご質問等ございましたらお気軽にお問い合わせ下さい。

資料 2006年5月29日付 日本経済新聞

商品開発箇所 須賀重政